

6月の安全運転ごよみ

1日(日)～30日(月)…「全国安全週間」準備期間、「不正改造車を排除する運動」強化月間

1日(日)…気象記念日 5日(木)…世界環境デー 8日(日)～14日(土)…危険物安全週間

6月の安全運転目標

雨天走行時の危険を知る！

6月は雨が降る日が多い季節ですが、雨の日の運転は、視界が悪いだけでなく、タイヤがスリップしやすい路面となるため、より慎重に運転しなければなりません。

そこで今回は、雨天走行時の危険について紹介します。

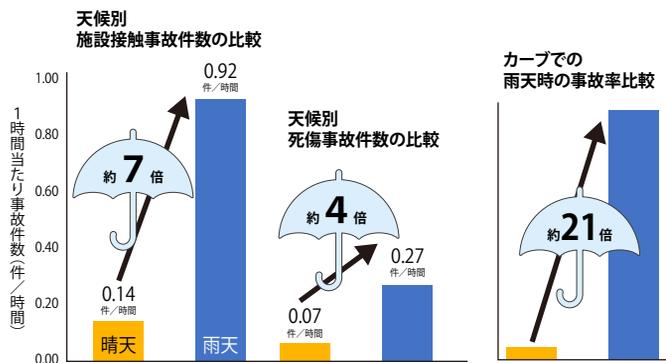


■ 雨の日は、死傷事故が4倍、物損事故は7倍に！

首都高速道路で発生した交通事故の統計では、晴れの日と比較し、雨の日の死傷事故は4倍、縁石などの施設等に接触する物損事故は7倍という結果が出ています。

また、阪神高速道路では、カーブでの事故発生率が約21倍に増加したとの統計もあります。

そのため、雨の日は速度を抑え、車間距離を広くとり、安全確認の精度を高めることや、無駄なブレーキを踏まないなど、十分な安全の確保に努めましょう。



出典：首都高ドライバーズサイト

出典：阪神高速ドライバーズサイト

○ 事 | 故 | 事 | 例



下り坂を走行中にスリップして、民家の塀に衝突

2024年7月11日午後1時45分ごろ、長崎県内のカーブの続く下り坂を走行していた軽乗用車が車線をはみ出し、住宅の塀に衝突する事故が発生しました。警察によると、事故当時、路面は雨で濡れていて、車はスリップしたものとみられています。「坂道」や「カーブ」などで、「速度超過」や「ブレーキ」といった条件が重なると、車はドライバーが想像するよりも簡単にスリップしてしまうおそれがありますので、雨天時は、特に慎重な運転を心掛けましょう。



雨天の危険に備えた運転を 実践しよう

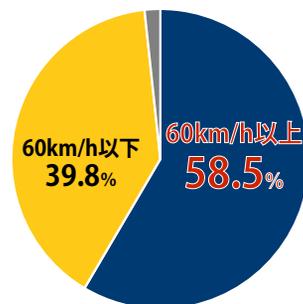
雨天時の車の速度と交通事故

雨の日の事故は車の速度も大きく影響しており、時速60キロ以上で走行している際に発生しやすい傾向にあります。高速道路では普段よりも速度を控え、一般道路では制限速度を超えないように気をつけましょう。

また、雨天時にはタイヤと路面の間に水の膜ができ、ハンドルやブレーキなどが制御不能となる「ハイドロプレーニング現象」が発生する危険があります。

速度を抑えた運転はもちろんですが、日頃から出発前などにタイヤの溝や損傷などの点検・整備も実施しましょう。

雨天時 施設接触事故の速度別割



出典：首都高ドライバーズサイト

視界の悪化による歩行者等の見落としに注意

夜間走行時には、対向車のヘッドライトがまぶしく感じる場合があります。雨天時は、濡れた路面にヘッドライトの光が反射することで、さらに視界が悪化するため、歩行者の見落としには特に注意が必要です。

同様に、濡れた路面にヘッドライトの光が乱反射すると、一時停止線や横断歩道といった「路面標示」も見落としやすくなります。

雨天時、特に夜間はこうした危険も頭に入れて、慎重な運転を心掛けましょう。



路面標示の見落としに注意しよう

管理者として
知っておきたい知識

気象情報をこまめに確認して、豪雨に備えよう

雨の日は、雨天走行時の危険や安全運転方法について、朝礼や点呼、出発時等に運転者に声をかけることが重要です。

また、豪雨が予想されているときは、天気予報や雨雲レーダーなど、最新の予報をこまめに確認し、運転者の身に危険が及ぶ前に運転中止の指示を出せるよう、準備することも大切です。



最新の気象情報をこまめに確認しよう